

公開実用 昭和 58-6653

優先 主張の出願

西暦 1981年6月12日

イタリー國出願



優先権証明書補充

(X4,700) 実用新案登録願()

57.6.11

特許庁長官一殿

昭和 年

11月

1. 考案の名称 ワイパー用ピボットピン

2. 考案者

住所 イタリー國 10098 リヴォリ ヴィア ロッセーリ

氏名 ザセツベ マイオツコ

3. 実用新案登録出願人

住所(居所) イタリー國 10040 トリノ ドルエント
ヴァイア ヴェナリア 13

会社(名称) チヤンピオン スパーク プラグ
イタリアーナ ソナエタ ペル アツイオーニ

代表者 アンニバアル フラッティーニ

国籍 イタリー國

4. 代理人 住所 特許庁 57087313 113番1号 電話(03) 211-8741

氏名 57087313 113番1号 村 稔

中井
村理
(ほか 4名) 植木



実用 58-6653

640

57 087316

本件
審査

明細書

1 考案の名称 ウィパー用ピボットピン

2 実用新案登録請求の範囲

- (1) 橫断ピボットピン3、4を有するウィパープレードプリッジ1、2において、ピボットピン3、4は上記プリッジ1、2に設けられた開口10、20内でプリッジ1、2に対し横断方向に滑動可能であることを特徴とするウィパープレードプリッジ。
- (2) ピボットピンがリベット3、4であることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(1)項記載のウィパープレードプリッジ。
- (3) ピボットピン3、4が、その両端において、ウィパーアームコネクタ20を保持し案内するための手段6a、6b；14a、14bを有することを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(1)項記載のウィパープレードプリッジ。
- (4) 上記2つの保持及び案内部材が平盤6a、6bの形状を有するか、又は細長い平盤部品14a、14bの形状を有する実用新案登録請

求の範囲第(3)項記載のワイパー・ブレードプリッジ。

- (5) 2つの保持及び案内部材14a、14bが、1つの底部13を形成する如く一緒に連結された実用新案登録請求の範囲第(4)項記載のワイパー・ブレードプリッジ。
- (6) ピボットピン4とプリッジ2に設けられた対応する開口20とが切断面を有し、ピボットピン4がその軸を中心に回転できないことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(5)項記載のワイパー・ブレードプリッジ。
- (7) 2つの保持及び案内手段14a、14bがピボットピン4に固く接着されたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第(6)項記載のワイパー・ブレードプリッジ。
- (8) プリッジ1、2の断面が実質上U型である実用新案登録請求の範囲第(1)項ないし第(7)項のいずれか一項に記載のワイパー・ブレードプリッジ。

3. 考案の詳細な説明

本発明はワイパーームに取付けるための横断ピボットピンを有するワイバープレードアリッジに関する。このようなアリッジは、例えば、自動車のワイバープレードに使用される。

公知のワイバープレードアリッジには、ワイパーームの背部に装着されるよう設計されたアリッジと、ワイパーームの側部に装着するよう設計されたアリッジとがある。第1の場合には、ピボットピンがアリッジの2つの側壁の間に存在し、ワイパーームがアリッジの背部に設けられた開口を貫通するピボットピンに取付けられる。これに対し、第2の場合には、ピボットピンがアリッジの側壁の一方から横方向に突出する。本発明は上記第2のワイバープレードアリッジ、すなわち横方向に突出するピボットピンを有するワイバープレードアリッジに関する。

ワイパーームに横方向に取付けられたワイバープレードアリッジは、例えば西欧特許第2,310,374号や同第2,624,723

号が開示しており、前者はフック端型のワイパー
アームを取付けるためのコネクタを有するもので
あり、後者は直端型のワイパーアームである。上
記2つの特許のアセンブリは、アーミングする
アーミングアームが180°ひっくり返すことなくワイパーの両側
に取付けることができない欠点がある。

もし、ワイパー刃がピボットピンを通過
する横断面に脚し対称であるならばこれは重要で
なく、そのようなことは上記横断平面に脚し対称
でないワイパー刃にとつてもはや問題でな
い。実際ワイパー刃が180°回転する場合
は、結果として、その両端が自動車製造者によつ
て最初に決められたレベルに脚し高過ぎたるか又
は低すぎるかのいずれか一方となる。さらに、ワ
イパー刃が上記横断平面に脚し非対称に配
置された第2のヨークを有するならば、拭取面に
沿つた圧力の分布は、もしワイパー刃を
180°回転するならば自動車製造者によつてあら
かじめ定められた圧力と同じではない。

本発明によるワイパープレードブリッジは、ピボットピンがブリッジに設けられた開口内のブリッジに横断方向に滑動可能であることによつて特徴づけられるから、本発明によるワイパープレードブリッジは上記の欠点を除いている。このように、ワイパーアームはブリッジの右側及び左側のいずれにも取付けられることができる。

本発明は、添付図面を参照して2つの実施例の説明によりよく理解されるであろう。

第1、2及び5図は本考案によるブリッジ/ピボットピンの第1実施例を示す。ブリッジ1の横断面は、2つの側壁12a、12bとウエブ11aとからなる逆U字型である。ブリッジ1の2つの側壁12a、12bは円開口10の直径よりも僅かに小さい直径を有するピボットピンBを通過する2つの円型開口10(第5図)を有し、それ故にピボットピンBは開口10内を横方向に滑動可能である。第1、2及び5図において、ピボットピンBは2つのヘッドDを有するリベットであり、ピボットピンは例えばボルトとナットから構成されてもよい。

第8ないし10図は、例として、第1図のリベ

ット3に装着することができるコネクタ21を示す。このコネクタ21は、それ自体公知であるように、第11図参照番号30によつて示されるようなフック端部のワイパーームの連結器である。コネクタ21をリベット3上に装着するため、上記リベット3は上記シート26に準備された開口27を介してコネクタ21のシート26に挿入する。コネクタ21がリベット3上に装着されると、もしそれがプリツジ1の1つの側に装着されると、平面ディスク6bによつて案内され、または、それがプリツジ1の他の側に装着されると、平面ディスク6aによつて案内される。

平面ディスク6a、6bは中央円型開口7、8を設け、また、ピポットピン3がリベットならば、ディスク6bの一方は対応するリベットヘッドによつてリベットに固く固定され、これに対し、他のディスク6aはリベットを中心に回転可能であつてもよい。しかしながら、もしピポットピンがボルトならば、2つのディスクはボルトのまわりに回転自在であつてもよい。

第3、4、6及び7図は、本発明によるアリッジ/ピボットピンアッセンブリーの第2の実施例を示す。この第2実施例において、第1実施例のデイスクリット、6bは、アリッジ2の下を通過する横断片16によつて一緒に連結された2つの細長い部品14a、14bによつて置換えられている。このように、デイスクリット、6bの代りは、ピボットピン4上のコネクタ21を保持するI字型部品13である。

I字型部品13の2つの側壁14a、14bの双方にはピボットピン、すなわちリベット4を通過させる開口17、18が設けられている。しかしながら、リベット4はその軸及び部品13のいずれについても回転不可能であるということに注意すべきである。すなわち、部品13とリベット4とはアリッジ2に關し回転可能である。このことは、例えば、部品13の側壁14a、14bの中だけでなく、アリッジ2の側壁15a、15bの中にもリベット4と対応する開口に沿つた半らな表面を設けることによつて達成される。



多くの他の公知のコネクタのように、コネクタ21は、第1実施例のリベット3又は第2実施例のリベット4上に接着されててもよい。また、上記コネクタは、例えば、すでに上に述べたようなフック端型のワイパーームのために設計されている。コネクタ21は、シート26と上記シートの開口27の他に、その2つの端部に横断片25によって一緒に連続された2つの固い側壁23、24を設けた部分的円筒ボディー22を有する。その底面において、コネクタ21は止め具29及び動作手段31を有する可搬性アレード28を有する。

コネクタ21がピボットピン4に接着されると、ワイパーーム30(第11図)は矢印A及びBによつて示されるようにコネクタに接着される。アーム30はアームのフックの下直線部に設けられた開口32の中に引掛かけてある止め具29によつてコネクタ21に接着される。この作動部において(第11図)、アーム30は矢印Cによつて示されるようにアリッジ2に脚し軽く回転でき

る。

アリッジ／ピボットの新しいアッセンブリーの2つの実施例が開示された。しかしながら、本考案の変更や変形が、請求の範囲に定義された考案から逸脱することなく、可能であることは明らかである。

4 図面の簡単な説明

第1図は本考案の第1実施例によるアリッジ／ピボットピンのアッセンブリーの平面図である。

第2図は第1図のアリッジ／ピボットピンアッセンブリーの側面図である。

第3図は本考案の第2実施例によるアリッジ／ピボットピンアッセンブリーの平面図である。

第4図は第3図のアリッジ／ピボットピンアッセンブリーの側面図である。

第5図は第1図の線V-Vに沿つた断面図である。

第6図は第3図の線VI-VIに沿つた断面図である。

第7図はピボットピンの中間位置のアリッジを

示す第 6 図と同様の断面図である。

第 8 図は本考案によるピボットピンに装着することができるコネクタの平面図である。

第 9 図は第 8 図の線 K - K に沿つた断面図である。

第 10 図は第 9 図のコネクタの底面図である。

第 11 図は本考案によるピボットピンに装着されたリバーラームを示す第 9 図と同様の断面図である。

1、2 ワイバープレートブリッジ

3、4 ピボットピン

10 開口

12a、12b 御壁

20 開口

21 コネクタ

29 止め具

FIG. 1

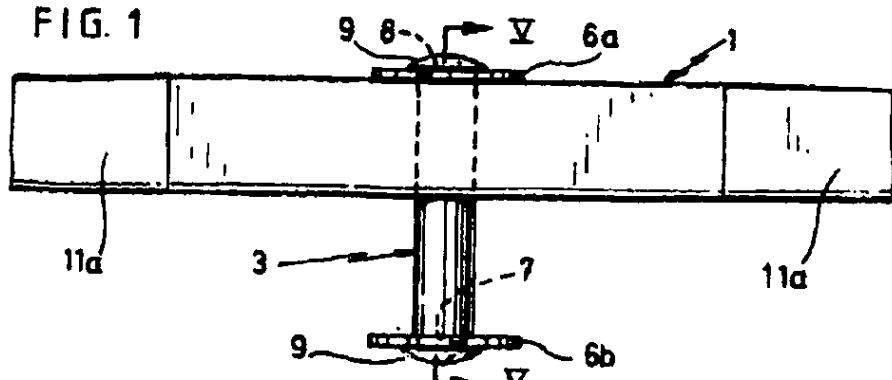


FIG. 2 11a

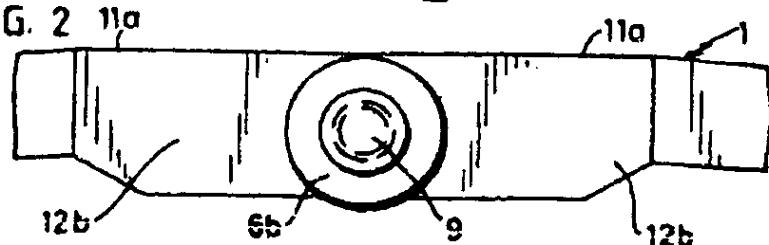


FIG. 3

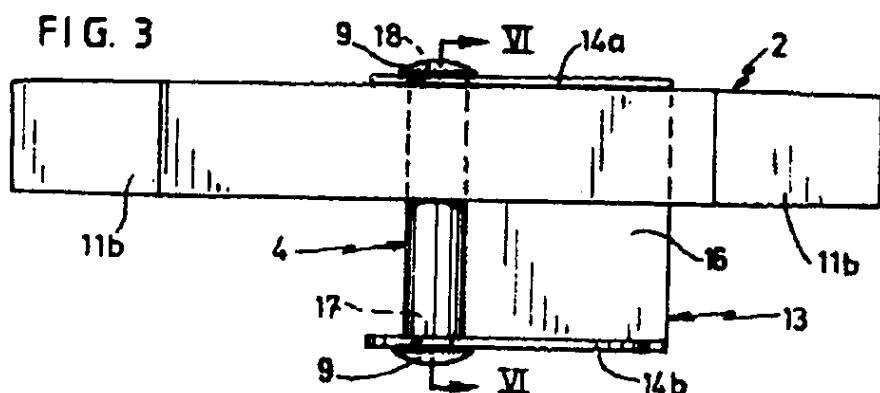
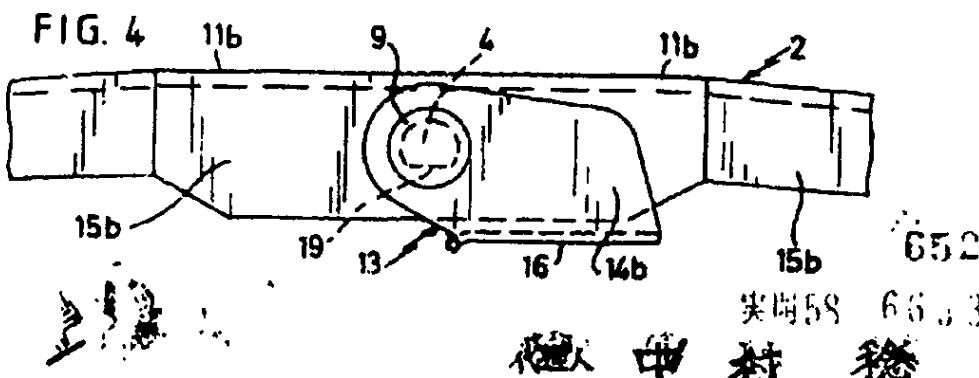
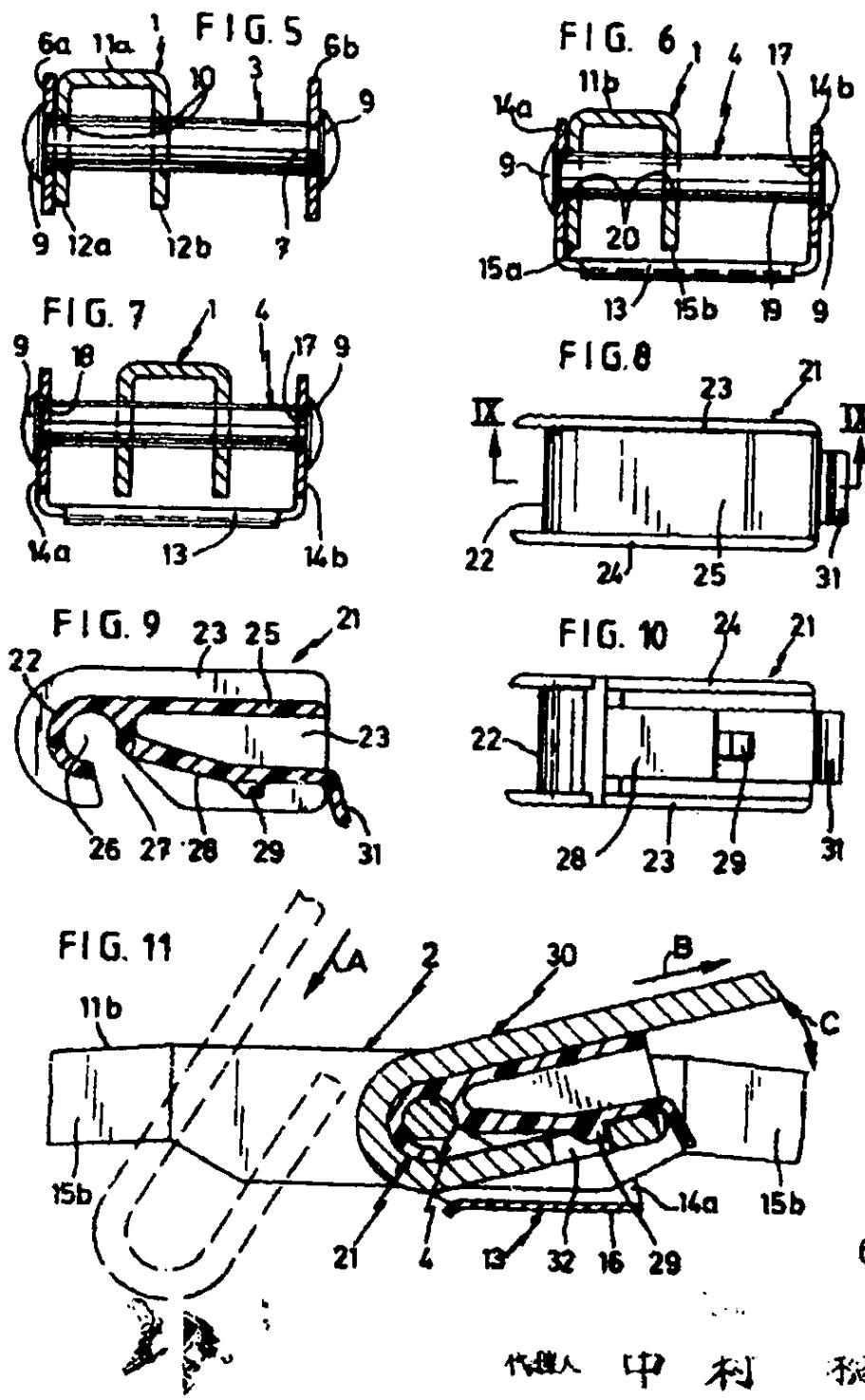


FIG. 4



總中村



5. 添附書類の目録

(1) 明細書	1通
(2) 図面	1通
(3) 委任状及び訳文	各1通
(4) 優先権証明書及び訳文-（追つて補充する）	各1通
(5)	通

6. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人および代理人

(1) 考案者

住 所

な し

氏 名

(2) 実用新案登録出願人

住 所（居所）

氏 名（名称）

な し

代表者

(3) 代理人

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号 電話（内）211-6741

氏 名（6254）弁理士 山 本



同 所（6590）弁理士 串 岡 八 郎

同 所（6701）弁理士 大 塚 文 一

同 所（6518）弁理士 八 戸 嘉 一

実開58-6653

641